

3) メドウフォックステール（以下：MFT）

①MFTとは

MFTは、家畜の嗜好性が低く、草地に侵入するとチモシーを圧倒して優占します。MFTを防除するには、生育特性に基づき増殖の機会を奪い、侵入または拡散経路を遮断し、枯殺による防除が必要となります。



②生育過程（種子生産）

MFTは5月中旬には出穂を始め5日程度で出穂期となり7月上旬まで継続し、出穂後10日程度で開花が始まり7月中旬頃まで継続します。

開花後、約22日で発芽可能種子となり、7月中旬まで種子生産が継続します。増殖を抑えるためには1番草開花後21日以内に刈り取り、2番草は40日以内に刈り取る管理が必要です。

MFTの種子は発芽揃いが悪く、地表落下後1年以上経過しても発芽能力は落ちませんが、3年以上経過した種子は発芽能力が低くなります。

③更新防除法

更新防除方法は、体系処理が基本となります。

			5月			6月			7月			8月			9月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
MFT生育特性																	
			更新方法			前年			刈取			刈取			除草剤		
体系処理			当年			除草剤			耕起 整地			除草剤・は種					

図 V-10 メドウフォックステール防除カレンダー

④防除に当たっての注意事項

- 輪作の場合、飼料用とうもろこし2年以上作付けし、ニコスルフロロン剤を用いた茎葉処理を行います。
- 草地更新時にグリホサート系除草剤を使用し、前年前植生1回および翌年は実生種子・は種床処理2回行い、オーチャードグラス早生品種をは種し、適期収穫します。
- 草地更新前の直近2年以上、MFT種子が発芽能力を持つ前に早期刈り取りを行い、前植生及びは種床にグリホサート系除草剤処理をして牧草をは種します。
- 日常的な防除として、MFTが法面やほ場の端に存在しているか確認し、MFTが確認された場合は作業機械などでほ場内部に引き込まないようにします。ほ場内部に侵入している場合は、刈り取り・収穫残渣が他のほ場に拡散されないように作業機械を清掃します。